

他人の能力の妨害

概要

- 字義通りに解釈すれば、他人が能力を行使することを妨害する行為そのものを指すが、リゾスレ的には「他人の超能力を妨害する超能力」と解するのが定説。
- ダークネスの矢口真里が行使する
- 『[蒼の共鳴特別編第1夜 - 盲目の正義 -](#)』においては、「能力阻害 - インペディメント - 」という名称で、表現されている。

登場作品

- 『[The Omen of War 激戦の予兆](#)』 光井愛佳の予知能力を封じ込め、念弾による攻撃の回避を不可能にして、危機に陥れた。
- 『[蒼の共鳴特別編第1夜 - 盲目の正義 -](#)』 精神感应能力の調律中の高橋愛を襲撃した際に発動。
同作では一度に二つの能力を封じるという設定が為されている。
高橋の精神感应と瞬間移動を封じている。

概要

- 実際に行使された回数は少ないものの、いずれの場合も敵を大苦戦させている。
- 光井を襲った際には、光井の記憶力を封じられなかったことが矢口の敗因となった。高橋襲撃の際には、新垣の救援が無ければ高橋は命を落としていたと思われる。
- その強力さゆえに作品への登場回数は少ないのかもしれない。
- その原理は不明だが、矢口のキャハハ笑いでムカついたために、力を使えなくなった、ということではなさそうである。
- (17) 29に登場して来る組織の筆頭Dr マルシェとは別人 が “ Especial Anti-Resource System ” (抗能力装置) というシステムを行使して高橋と戦ったが、効力は薄かった。